



デイリー・ジーザス・ニュース #334

イエスの復活と永遠の宣教

イースターの日曜日におけるイエスの5回の復活の出現

イエスの復活の最初の出現：マグダラのマリアへ

ヨハネ 20.10-28 (並行聖書：マルコ 16.9-11)

=====

^Mイエスは週の初めの日に早く復活し、まず七つの悪霊を追い出したマグダラのマリアに現れました。

10 ^J弟子たちは (墓から) 自分たちの宿舎に戻って行きました。11 マリアは墓の外に立って泣き続け、身をかがめて墓の中をのぞき込みました。12 すると、イエスの遺体が置かれていた場所に、白い衣を着た二人の天使が、一人は頭の方に、もう一人は足の方に座っているのが見えました。

13 彼らは彼女に尋ねた。 」 婦人よ、なぜ泣いているのですか。 」

」 彼らは私の主を連れ去りました」と彼女は言いました。 」 どこに置いたのか分かりません。 」

14 そこで彼女は振り向いて、そこにイエスが立っておられるのを見たが、それがイエスであるとは気づかなかった。

15 イエスは彼女に言われた。 」 婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのですか。 」

彼女は彼が庭師だと思い、こう言いました。 」 旦那様、もし彼を連れ去ったのなら、どこに置いたのか教えてください。私が引き取ります。 」

16 イエスは彼女に言われた。 」 マリア。 」

彼女はイエスのほうを向いて、アラム語で「ラボニ！」 (「先生」の意味) と叫びました。

17 イエスは言われた。『わたしにつかまるのはやめなさい。わたしはまだ父のもとに昇っていないからです。むしろ、わたしの兄弟たちのところに行って、』わたしは、わたしの父であり、あなたがたの父である方、わたしの神であり、あなたがたの神である方のもとに昇る』と言いなさい。』

18 マグダラのマリヤは^M出て^J弟子たちのところへ行き、^Mイエスと一緒にいて嘆き悲しんでいる人たちのところへ^J行き、彼らにこう告げた。『私は本当に主を見ました。この光景を決して忘れません！』

彼女はイエスが自分にこれらのことを話したことを彼らに告げた。彼らはイエスが生きていることと、彼女がイエスに会ったことを聞いても信じなかった。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	新しい園の墓と上の部屋
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第9段階：イエスの復活と永遠の宣教
	イエスの復活と40日間の宣教
	イースターの日曜日におけるイエスの5回の復活の出現
タイトル：	イエスの復活の最初の出現：マグダラのマリヤへ

今日の朗読は、イエスの40日間の復活宣教を構成する、イエスの11回の栄光ある出現の始まりです。イエスの最初の5回の出現はすべてイースターサンデーに起こりました。それは宇宙の誕生と同じくらい栄光に満ちた日でした。

復活したイエスとのこれらの出会いを「出現」と呼ぶのは、イエスがご自身の復活体を自由に目に見えるようにしたり、見えなくしたりする力をお持ちだからです。この11回の出会いのそれぞれ

れにおいて、イエスは一時的にご自身の存在を目に見えるようにし、そして再び見えなくなられました。

イエスがこのように弟子たちに「現れた」重要な理由の一つは、イエスが弟子たち（そして私たち）と共に生きながら臨在していることは、私たちがイエスを見るかどうかによって左右されるものではないことを示そうとしたからです。「見える」か「見えない」かに関わらず、イエスの復活の臨在は確かに私たちと共にあります。

の出現の一つ一つを、特定の目的のために注意深く選びました。今日の朗読は、イエスの最初の復活の出現を描写しているため、特に重要です。また、ヨハネが記したため、非常に深い洞察と深い意味が込められており、また非常に広範囲にわたります。解説では、この箇所の要点のみに触れます。この箇所は、生涯にわたる瞑想と研究に値するものです。

イエスが最初に、そして先駆的な出現の場としてマグダラのマリアを選んだのには、ある理由がありました。それは何だったのでしょうか？聖書には明確に記されていませんが、ヨハネの物語全体の流れの中に、イエスのその理由が暗示されています。これから、その点を辿っていきましょう。

鍵となる原則は、イエスが「告別説教」第14章で示した原則です。そこでイエスは、復活と昇天の後に弟子たちが豊かになるであろう、イエスとの「新しい」霊的関係について教えられました。イエスは次のように約束されました。

「わたしの教え／戒めを心に留め、それを守る人は、わたしを本当に愛する者である。わたしを愛する者はわたしの父に愛されるであろう。そして、わたしもその人を愛し、わたし自身をその人に現すであろう。」ヨハネ14章21節（14章23-24節も参照）

愛こそが鍵です。イエスの愛に応えて、私たちは（1）イエスの戒めを「守り」、（2）それを「守る」ことによってイエスを愛すべきです。そしてイエスは、従順を通してご自身を愛する者に、さらにご自身を現すと約束されました。言い換えれば、イエスは従順、つまり忠実さを通してご自身を最も愛する弟子に、最もご自身を現すのです。

この原則に従えば、イエスは最初にマグダラのマリアにご自身を現されました。なぜなら、彼女がイエスを最も愛していたからです。復活の物語はこれを裏付けています。

マリアは、十字架上でイエスの苦しみの間ずっと、イエスを支え続けた女性の一人です。イエスが亡くなった後も、マリアはイエスの傍らに立ち、埋葬のために遺体を準備したいという切なる願いを抱きながらも、状況によってヨセフとニコデモに任せざるを得ないという苦悩に耐えました。

マリアは彼らの奉仕が不十分だと悟った。最後の瞬間まで墓のそばで見守った後、金曜日の夜と土曜日の残りの時間は、日曜日の朝にイエスの遺体に再び塗るための香料の準備に費やしたのだ。計画通りだった。彼女は悲しみに暮れることさえしなかった。傷ついた主の遺体こそが、彼女の最優先のケアを必要としていたからだ。

そして、日曜日の夜明け前に女たちが墓へ向かった時、マリアは墓へ駆けつけ、一番乗りで到着しました。空の墓で天使たちと出会った後、女たちが知らせを伝えるために二階の部屋へ戻った時も、マリアは再び先頭を走り、一番乗りで到着しました。何物も彼女を止めることはできませんでした。彼女の愛は力強かったのです。

さらに、ペトロとヨハネが空の墓の様子を確認するために駆け寄ったとき、女たちの中でマリアだけが二人の後を追いかけて、ペトロのすぐ後に墓に戻ってきました。二人の使徒は空の墓と埋葬布の位置を確認した後、立ち去りましたが、マリアはそこに留まりました。

ギリシャ語はマリアが泣いていたことを明確に示しています。それは単なる一時的な涙の流出ではありませんでした。彼女は泣き続け、止まることはありませんでした。イエスの遺体を見つけ、最愛の亡き主のために惜しみなく捧げられた最高の埋葬の準備をし、イエスを敬うまで、彼女の傷ついた心は癒されることはありませんでした。

これらすべてにおいて、マリアは主を敬うという最も強い願いと情熱を持ち、即座に、そして完全に従順でした。彼女は与えられたすべての指示を果たすために文字通り全力で走り、そしてその後も、自身の愛がそうさせたので走り続けました。物語は、マリアが誰よりもその従順さと態度を通してイエスを愛していたことを物語っています。ですから、イエスはまずマリアに現れました。木曜日の夜に約束された通り、イエスは彼女に「現われた」のです。

マリアはイエスをどれほど愛していたとしても、最初はイエスだとは気づきませんでした。遺体を探すことに夢中になっていたからです。天使との二度にわたる出会いにも動じませんでした。イエスの遺体を見つけて敬うまでは、彼女にとって何の意味もありませんでした。それは彼女の使命だったのです。

マリアを正気の淵に追いやった悲しみと一心不乱の集中を打ち砕くのに必要なのは、イエスの一言だけだった。

「メアリー。」

イエスが彼女の名前を呼ぶと、彼女はすぐにそれがイエスだと分かりました。ここにはたくさんのことが書かれています。イエスはこう言っておられました。

「戸口から入る者は羊飼いである...羊を名指しして連れ出す...」（ヨハネ10:2-3）

「わたしは良い羊飼いである。わたしはわたしの羊を知っており、わたしの羊もわたしを知っている。」（ヨハネ10:14）

「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従います。」（10:27）

マリアにとって、地上で自分の名前を呼ぶ主の声ほど響く音は他にありませんでした。霊的な復活の体を持つイエスの姿は、血肉の体と見分けられるほど似ていましたが、同時に異なっていました。しかし、主の声は全く同じままでした。マリアは、イエスが自分の名前を呼ぶとき、その音をこれまで聞いたことのないほどはっきりと認識しました。この音によって、マリアはイエスを実際に見ることなく、瞬時に復活したイエスを信じたのです。

私達は同じです。

イエスがしがみついてはならないと命じたことは、彼女が即座にイエスの足元にひれ伏し、命がけでしがみついたことを示しています。彼女は決して離さないかのように、イエスにしがみつきました。イエスは彼女に、ご自身の肉体にしがみつくなと命じました。イエスは彼女とすべての弟子たちに、ご自身に「**とどまる**」ようにと命じましたが、彼女がしがみつくなのは、イエスの肉体ではなく、間もなく彼女に送られる聖霊によって、イエスの霊的な存在でした。これは、この最初の復活の出会いにおけるもう一つの重要なメッセージでした。

ここにはまだ書ききれないほど多くのことが記されています。復活したイエスは、私たちが従順にイエスを愛するにつれて、ますますご自身を私たちに明らかにしてくださいという原則。御言葉の中でイエスの声を聞くことによって、復活したイエスの栄光のすべてを目にすることができるようになるということ。そして、聖霊を通して私たちと共にある、目に見えないイエスの霊的な臨在に「留まる」ことによって、私たちはイエスにすがりつくべきであるという原則。こうした復活の真理は、イエスがマリアに現れた際に見事に示されています。

マリアがイエスとの出会いの後、情熱的な従順をもって主を愛し続けたことに注目してください。彼女はイエスの言われたとおりに、すぐに使徒たちのもとへ行き、イエスとの出会いの知らせを忠実に伝えました。

応用：

新契約の4つの強力な約束のうちの1つは次のとおりです。

「彼らは互いに、あるいは兄弟に『主を知れ』と教えることはなくなる。なぜなら、彼らは皆、小さい者から大きい者まで、わたしを知るようになるからだ。」ヘブライ人への手紙8章11節、エペソ書3章31節

すべての信者は、御子と聖霊を通して神を個人的に知る平等な機会を持っています。三位一体に偏見はありません。しかし、三位一体の無条件の愛に対する私たちの従順さを通しての応答によって、私たちが神を実際にどのように知るかが決まります。

イエスはご自身を私たちに明らかにすると約束されました。イエスの生涯と御言葉を熱心に学び、その戒めを「理解」し、そしてそれに「従う」のは、私たち次第です。イエスを熱烈に愛し、従順に生きる人々に、イエスがご自身をどれほど明らかにされるかには限りがありません。

あなたにとって、従順を通して神を愛することはどれほどの優先事項ですか？

マリアの例はあなたにとってどのような挑戦ですか？

今日、神を知るために、あなたはどのように再び努力する必要がありますか？